



# Gold Link Corporation

## GOLD FOURSEASONS REPORT

2019年秋号

発行日 令和元年10月25日

目次：

2019年	1
第2四半期	
世界金需要	
ゴールドの再貨幣化II	6

## 2019年第2四半期の世界金需要

### ハイライト

金価格は数年ぶりの高値をつけました。金価格が1,400米ドル/オンスを突破したのは、2013年以来初めてです。金利先安観と不安定な政治情勢が金相場の急騰を支えたほか、中央銀行の活発な金買ひも相場上昇を後押ししました。

### ☆中央銀行の金買ひとETFへの資金流入が上半期の需要を牽引

第2四半期の金需要は1,123トンと、前年同期から8%増加しました。中央銀行の金購入が、過去最高を記録した結果、上半期の金需要は、3年ぶりの高水準となる2,181.7トンに達しました。2019年上半期に金需要を牽引した原動力は、中央銀行の金購入とETFへの堅調な資金流入でした。宝飾品需要が上半期に伸びたのは主として、インドの消費者を取り巻く環境が好転したためです。金地金・金貨の投資縮小は、少なからず価格につられた動きです。金価格が数年ぶりの高値をつけたことを受けて利益確定売りが出た他、個人

投資家の動きがほぼ止まりました。

### ☆宝飾品

第2四半期の宝飾品需要は小幅増加、2%増の531.7トン

・上半期の宝飾品需要は微増して1,061.9トンとなり、4年ぶりの高水準に達しました。

・インドの宝飾品需要は第2四半期初めに婚礼シーズンと祝祭日関連の購入に押し上げられましたが、6月に入って金相場が上昇してからは需要が大きく落ちこみました。

・中国の宝飾品需要も同様の経緯をたどり、4月から5月にかけては小幅増加したものの、6月に価格が急騰して消費者心理が悪化すると需要は冷え込みました。

2019年第2四半期の宝飾品需要は、531.7トンとなり、前年同期の水準を2%上回りました。上半期の合計は1,061.9トンで、前年同期の1,048.2トンを1%上回りました。伸びの大部分は、2018年の需要低迷から回復したインドの増加分です。その他にも、米国、中東の

(2 ページに続く)

■世界金需要	Q2.18	Q3.18	Q4.18	Q1.19	Q2.19	前年同期比
宝飾品	520.8	546.2	646.9	530.2	531.7	+2%
エレクトロニクス	66.5	68.8	67.8	63.6	64.7	-3%
その他	12.8	12.9	13.0	12.9	12.7	-1%
歯科	4.0	3.7	3.6	3.5	3.7	-7%
工業・歯科小計	83.3	85.4	84.4	80.0	81.1	-3%
金塊退蔵	179.4	211.8	194.1	185.8	150.7	-16%
公的金貨	51.4	71.4	67.9	56.1	49.2	-4%
メダル類	17.3	18.4	22.1	16.3	18.8	+8%
小売り投資小計	248.1	301.6	284.1	258.2	218.7	-12%
ETF・関連商品	33.8	-104.5	112.9	40.3	67.2	+99%
投資合計	281.9	197.1	397.0	298.5	285.9	+1%
中央銀行購入	152.8	253.1	165.6	149.8	224.4	+47%
需要合計	1,038.8	1,081.8	1,293.9	1,058.5	1,123.1	+8%

## 2019年第2四半期の世界金需要

数カ国など一部の国で需要が小幅増加しましたが、6月の相場急騰が、多くの市場で宝飾品需要を圧迫しました。6月に米ドル建て金価格が急騰しましたが、他の通貨建てでも同様で、中には米ドル建て以上に価格が上昇した市場もあります。宝飾品の小売価格が金相場に追随して動くアジアや中東をはじめとする多くの市場では、こうした金相場の動向は様々な意味合いにとらえられました。長期的な上昇相場が始まったととらえた消費者にとっては、価格がさらに上昇する前に買いを入れる好機と映りました。その一方で、購入手控えのサインにとらえて、価格が落ち着くか下落するまで模様眺めを決め込む消費者もいました。

### ○インド

インドの宝飾品需要は、2017年第2四半期以来で最も勢いよく伸び、2018年第2四半期の149.9トンから12%（18.7トン）伸びて168.6トンに達しました。これには主に2つの要因があります。まず婚礼に吉とされる日が2018年を上回ったこと、そして2～3月の水準から国内の金価格が下がったことです。4月から5月にかけて金価格が下がり、婚礼シーズンや祝祭日関連の購入に拍車がかかりました。第1四半期と同様、第2四半期にも婚礼に縁起が良いとされる日が前年同期の21日に比べて今年は37日と多かったことが、4月から5月にかけてインドの宝飾品市場の追い風となりました。これに加えて、金価格が第1四半期から下落したこともあり、市場の拡大に弾みがつきました。10グラム当たりの金価格は3月末の3万2,000ルピーから3万1,500～3万1,600ルピー近辺に下がりました。2月につけた3万3,500ルピーから2,000ルピー近く価格が下がると、消費者は吉日とされるアクシャヤ・トリティヤ（5月7日）に金購入に走り出しました。けれども、インドに悪材料がなかったわけではありません。

4月から5月にかけて景気が鈍化したほか、総選挙中は、現金の移動が制限されて需要を圧迫しました。婚礼シーズンが終了すると雨季が始まり、金価格は急騰しました。

6月に入って金価格が上昇し最高値を更新すると、需要は縮みました。国内の金価格は米ドル建ての金相場の上昇に伴って急上昇し、6月20日までに10グラム当たり3万3,500ルピーを突破して3万4,006ルピーと過去最高値に迫りました。国内金価格の上昇を受け、第2四半期末の10日間は需要がほぼ停滞しました。ある宝飾品大手は四半期レポートの中で、「第2四半期はマクロ経済情勢が厳しく、個人消費が打撃を受けた。特に6月に金価格が高値圏で推移したことが宝飾品業界の成長の重石となった」と述べています。

7月初めに発表される政府予算案で、金の関税引き下げが公表されると見込まれていたことも、6月に需要が振るわなかった一因です。蓋を開けてみれば、この見込みはまったく的外れでした。金の関税が2.5%引き上げられたのです。関税引き上げがインドの金需要に長期的に影響するとは考えられていません。

### ○中国

中国の宝飾品市場は、第2四半期に3四半期連続で前年同期の水準を割り込み、前年同期から4%減少して137.8トンになりました。第1四半期もやや低調だったため、上半期の需要は3%減少して321.4トンに留まりました。第2四半期は、例年であれば需要が弱含む時期ですが、4月から5月にかけて各店舗がプロモーションを展開したほか、高級価格帯の商品の刷新や開発が続いたことから、中国の宝飾品需要は好調に推移しました。しかし、6月に入って価格が上昇

■ 主要国需要							■ 世界金供給						
	2019年第2四半期			前年同期比				Q2.18	Q3.18	Q4.18	Q1.19	Q2.19	前年同期比
	宝飾品	投資	合計	宝飾品	投資	合計							
インド	168.6	44.5	213.1	12%	13%	13%	鉱山生産	869.2	883.2	905.6	847.5	882.6	+2%
中国	148.9	50.7	199.6	-5%	-28%	-13%	生産者ヘッジ	-37.7	-24.1	10.9	2.2	-10.5	---
中東	44.9	15.7	60.6	1%	-27%	5%	鉱山生産小計	831.5	859.1	916.5	849.7	872.1	+4%
トルコ	9.6	9.9	19.5	-4%	-15%	-10%	リサイクル	289.8	318.7	284.1	287.4	314.6	+9%
日本	4.2	-3.5	0.7	2%	--	-90%	供給合計	1,121.3	1,177.8	1,200.6	1,137.1	1,186.7	+6%
米国	29.4	3.0	32.4	4%	-42%	-5%	注1: 単位はトン						
欧州	14.3	32.4	46.7	-1%	-3%	-3%	注2: 上記のQは四半期						
注1: 単位はトン							注3: 前年同期比はQ2.18とQ2.19との比較						
注2: 前年同期比は18年第2四半期と19年第2四半期との比較													
注3: 中国の需要は台湾・香港を含んだ数値。													

## 2019年第2四半期の世界金需要

すると、需要に急ブレーキがかかりました。

### ○トルコ

トルコの宝飾品需要が第2四半期に前年同期から4%縮小した背景には、高値圏で推移した金価格や厳しい経済環境がありました。これを受け、上半期の需要は3年ぶりの低水準である18.6トンに留まりました。脆弱な個人消費、一向に低下しない高失業率、波乱含みの政局が、すでに悪化していた消費者心理に重くのしかかりました。リラの下落も続いて、国内金価格は2018年に記録した過去最高に迫ったため、宝飾品需要は当然ながら冷え込みました。

### ○欧米諸国

米国では10四半期連続で宝飾品需要が拡大し、上半期には53.4トンと10年ぶりの水準に達しました。宝飾品需要で世界3位の米国市場は、2018年第4四半期から2019年第1四半期にかけて政府機関が閉鎖されていた影響から脱し、消費者心理が4月から5月にかけて改善しました。ただ、中国との貿易摩擦懸念の広がりを受け、6月には再び悪化しました。

欧州では小幅縮小し、第2四半期の需要が14.3トンとなりました。ブレグジット(英国のEU離脱)懸念と消費者心理の冷え込みを受けて、英国とイタリアでそれぞれ需要が縮小し、フランスとドイツの小幅拡大では相殺できませんでした。欧州全域の需要が世界の宝飾品需要に占める割合は、わずか3%に留まっています。

### ☆投資

投資需要は全体で1%増加、金地金・金貨需要が12%減少したものの、ETFへの資金流入増加で相殺

- 金を裏付けとするETFの残高が第2四半期に67.2トン増えて2,548トンに達しました。
- 英国のEU離脱懸念とポンド安を受け、第2四半期に過去最高の資金が英国市場に上場するETFに流入しました。
- 6月に金価格が急騰して大台を突破すると、利益確定売りが出て、金地金・金貨需要が10年ぶりの低水準に落ち込みました。

### ○ETF

金を裏付けとするETFの残高は、第2四半期に67.2トン増え、6年ぶりの高水準である2,548トンに達しました。4月にかなりの資金が流出(57.2トン)しましたが、6月の力強い流入(126.7トン)でカバーしました。金額ベース

では、金を裏付けとするETFの運用資産は、1,154億米ドルと、2013年4月以降で最高となりました。これは、正味で資金が流入したことに加えて、金価格が上昇したためです。上半期の資金流入は、2018年で正味60.9トンだったのに対し、2019年は107.5トンに達しました。ETFへの投資拡大を誘った主な要因は、不透明な地政学的情勢、各国中央銀行のハト派的な発言、金価格の上昇などです。2019年年初からETFに流入した資金の大半は、欧州市場に上場するETFに向かいました。金を裏付けとする欧州ETFの残高は、今年上半期に87.2トン増えており、そのうち67.2トンが第2四半期に増えています。

第2四半期には、英国市場に上場するETFが牽引役となり、世界全体でETFに流入した資金のうち、約75%が英国のETFに向かいました。英国のEU離脱に絡んで不確実性が高まり、テリーザ・メイ氏の首相辞任後に主導権争いが繰り広げられると、投資家は安全資産である金を求めるようになりました。EU離脱交渉が何度も決裂し、英国の成長見通しが下方修正される中でポンドが急落したことも、第2四半期にETFへの資金流入に拍車をかける要因となりました。

ドイツのETFにも小幅の資金が流入しました。米中貿易戦争が投資家心理を圧迫し、相対的に安全性の高い金に注目が集まりました。自動車メーカーのダイムラーAGや自動車業界のサプライヤーであるBASFが業績を下方修正したことに現れている通り、ドイツの自動車業界は、世界の貿易を巡る不確実性の影響を受けやすく、こうした敏感さが、金を裏付けとするETFへの資金流入を後押ししている一因であるという事例証拠でもあります。また、超低金利環境も投資家を金に向かわせる要因の一つです。ドイツの10年国債利回りは6月にマイナス0.33%と、過去最低水準に達しました。こうした記録的な低金利を受け、金投資の魅力が高まっています。

英国とドイツの市場に上場するETFの運用資産残高は、第2四半期にそれぞれ11%増の554.1トン(過去最高)、2%増の338.5トンに達しました。米国では、6月に大量の資金が流入して、それまでの流出から流れが反転し、第2四半期では小幅4.8トンの流入となりました。4月から5月にかけて計60.2トンが流出しましたが、6月には北米ETFの運用残高が65トン伸び、力強い資金の流入が見られました。6月に米ドル建て金価格が9%上昇し、相場のモメンタムに基づいて投資判断を下す投資家を引き寄せた模様で、流動性が極めて高

## 2019年第2四半期の世界金需要

いETFに多額の資金が流入しました。米国と複数の貿易相手国との緊張が続いていることに加え、米連邦準備理事会(FRB)がよりハト派的な見解を示す中で、金利先安観が出ている(2019年末までに最高3回の利下げが織り込まれている)ことから、総体的に北米市場への資金流入が支えられました。

### ○金地金・金貨

金地金・金貨市場は、2019年第2四半期にはやや弱含みました。前四半期との比較では3四半期連続の需要減となり、前年同期との比較では218.6トンに12%減少しました。減少分の約3分の2は、中国市場の縮小によるものです。世界全体の金地金・金貨需要は上半期に476.9トンに留まり、2009年以来で最低水準に沈みました。

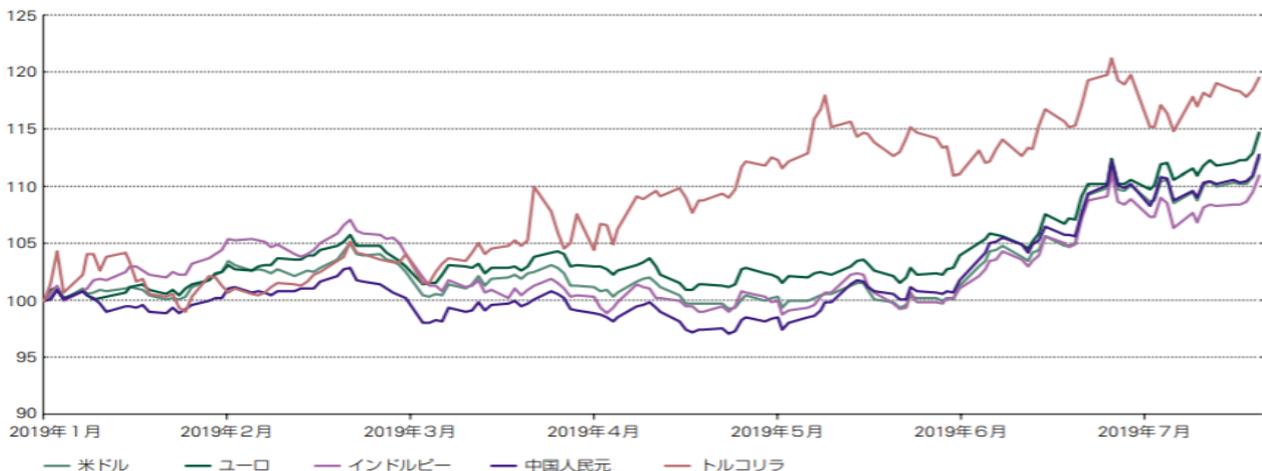
第2四半期は滑り出し好調でしたが、6月に金価格が上昇すると、金地金・金貨需要は失速しました。保有していた金地金・金貨の一部を売却して利益を確定した投資家もあれば、価格上昇を短期的なものにとらえ、値下がりしてから市場に参加しようと模様眺めを決め込む投資家もいました。

金の投資大国の動きは第2四半期に分かれました。中国では、第2四半期に投資家の懸念が後退し金価格が上昇すると、金地金・金貨需要が2016年第3四半期以来の低水準である49.5トンまで減りました。5月に中国人民銀行の潘功勝・副総裁が、金利安定を約束し、この1年半の間、金投資を支えていた通貨不安が後退したためです。6月に入ると、国内金価格が6年半ぶりの最高値である322元/グラムまで急上昇しました。2013年に金投資に走り、その後損失を被った「中国大媽」(中国の中年女性)の姿を見ていた中国人投資

家は、金価格が落ち着くまで様子見を決め込みました。こうした要素が相まって、新規投資が圧迫されると同時に売却が促されました。金地金・金貨需要が低迷したのとは対照的に、上海黄金交易所では投機的な買いが膨らみました。上海黄金交易所で信用取引されている金投資契約の「Au(T+D)」は6月に売買高が2,062トンと、過去2番目の規模に達しました。

一方で、インドは第2四半期に明るい材料がみられた数少ない国の一つです。インドの金地金・金貨需要は、第2四半期に前年同期比で13%増え、第2四半期としては5年ぶりの高水準である44.5トンに達しました。ヒンドゥー教とジャイナ教の祝祭日「アクシャヤ・トリティヤ」絡みの購買が5月に需要を押し上げ、この期間中の金の売買量は、前年同期から実に20~25%増えました。業界関係者は、この期間中の売買量のうち約60%が金投資商品であると試算しています。ルピー建て金価格が第2四半期末に3万4,006ルピー/10グラムに達し、2013年8月に記録した最高値である3万4,500ルピーに迫ったにもかかわらず、投資家は高値が続くと判断したため、売却は限定されました。

米国の金地金・金貨需要は冴えない状況が続きました。第2四半期の需要が3トンに留まり、上半期の需要は9.8トンと、2007年以来で最低の水準に沈みました。米国造幣局が発行する金貨の販売量は、1万9,000オンスに減り、2006年第3四半期以来で最低となりました。従来、金に資金を投じてきた投資家が、米国の堅調な景気拡大、低失業率、賃金の継続的な上昇に注目する中、この市場はしばらく苦戦が続いています。6月の金価格上昇を受けて、一部の投資家は保有資産の売却に動き、金貨中古市場のプレミアムが世界的な金融危機以前からの最低水準に下落す



注：2018年1月1日を100として指数化。

## 2019年第2四半期の世界金需要

ると、米国からドイツへの金輸出に拍車がかかりました。

欧州では、上昇相場でも金地金・金貨の目立った売却はあまり見られませんでした。それでも需要は振るいませんでした。第2四半期の需要は、32.4トンと、2008年以降で最低となりました。ドイツの需要は小幅増加（前年同期比1%増）しましたが、これは需要が低迷していた2018年第2四半期（2010年以後で3番目に低い水準）との比較です。

### ☆中央銀行

上半期の中央銀行の金需要は、2010年に買い越しに転じて以降で最大を記録

- ・中央銀行による買い越し量は第2四半期に前年同期から47%増えて、224.4トンに達しました。
- ・上半期の買い越し量は374.1トンとなり、2010年に買い越しに転じて以降で最大を記録しました。
- ・第2四半期に最も買い越し量が多かったのは、100トン（77%増）を積み増したポーランドでした。

中央銀行による第2四半期の純購入量は、224.4トンとなり、前年同期から47%増えました。上半期の合計は前年同期比57%増の374.1トンまで伸び、中央銀行が2010年に年間ベースで買い越しに転じて以降で最高を記録しました。力強い買いの勢いは、昨年から続いています。2018年には年間購入量が、過去50年間で最高



を記録し、中央銀行が金に注目していることが如実に表れています。世界で混乱が続いていることが今も、中央銀行の頭痛の種です。貿易摩擦と地政学的対立が景気減速に追い打ちをかけ、世界経済に引き続く暗い影を落としています。これは、第2四半期に金融市場が乱高下したことにも表れています。数々のリス

クが差し迫る中、中央銀行も他の投資家と同じく、資産保全のために安全資産とされる金に注目したわけです。

中央銀行の需要は、現在も幅広い国に分散しています。2019年上半期に金準備を1トン以上増やした国は、9カ国に上ります。この傾向は、ここ数四半期も続いており、新興国を中心として金を購入する国が増えています。ポーランドが大量に金を購入したために、ロシアは第2四半期に国別の購入量で2位に転落しました。ポーランドは、2018年に金準備を25.7トン積み増したことに続き、第2四半期には実に100トンを購入しました。これは、インドが国際通貨基金(IMF)から200トンを購入した2009年11月以降、一カ国の四半期購入量として最大です。ポーランド国立銀行の総裁で、教授でもあるアダム・グラピンスキ氏が示唆しているところによれば、この購入は戦略的なものであり、狙いは国の財政上の安全性を高めることにあるようです。

ロシアの金準備は、第2四半期に38.7トン増え、上半期の正味購入量は94トンに達しました。これに対して、2018年上半期は105.3トンでした。ロシアの金準備は6月末時点で2,207トンと、外貨準備全体の19%を占めています。中央銀行は5月、国内の産金会社から購入する金の価格を引き下げて、各社に輸出拡大を促しました。エリビラ・ナビウリナ総裁は、「金の購入価格を引き下げたのは、産金会社の販売が中央銀行に偏っているためだ。価格引き下げにより、国内の状況を国外情勢と合致させ、産金会社に輸出にも注力してもらうことを目指す」と述べています。これに合わせて、中央銀行の金買いは第2四半期末にかけてやや減少したものの、総裁は「金購入を引き下げる決定を特別に下したわけではない」と説明しています。

中国の金準備は、上半期に74トン増えました。月平均の正味購入量が第2四半期に小幅増えた結果、2019年の月平均は12.3トン（第1四半期は11トン）になりました。トルコでも金準備の拡大が続き、上半期には60.6トン増えました。このほかに上半期に1トン以上金準備を増やした国は、インド（17.7トン）、エクアドル（10.6トン）、コロンビア（6.1トン）、キルギス共和国（2トン）となっています。フィリピン中央銀行は5月末、国内の小規模産金会社から金の購入を開始すると発表しました。これを受けて年間購入量は現在の2万～3万オンスから大幅に増えて、100万オンスに達すると見込まれています。

## ゴールドの再貨幣化Ⅱ

### 「ゴールドは再度マネーになろうとしている」 その理由は、世界的巨額債務時限爆弾だ！！」

前号にひきつづき、ドルを基軸とする管理通貨制度の不安定化を原因として、大クラッシュが起こり、金を裏付けとするシステムに変わっていく・・・！？というレポートをご紹介します。このところ、こういうことを言う識者がよく目に留まります。非現実的な話と思われるところもあるでしょうが、水面下で少しずつ進んでいるのかもしれない。ある日気がついたら現実のことになっていたりして・・・

『FEDはすでに紙幣印刷プログラムを再開しています。債務バブルを膨らまし、世界株式市場を支えています。これは先月突然「レポ市場」(債券の貸借を通じて資金調達を行う市場)で始まりました。ここでFEDは短期的な一夜ものの流動性を供給しています。

FEDがQE3(量的緩和第3弾)を始めた時、一月に850億ドルの債権を購入していました。が、この3週で1760億ドルを買い上げました。これでもこれはQEではないという・・・

というわけで、QE実行中よりも多くの債務買取をしながら、これはQEではないという。ということは更にやり続けざるを得ないということです。FEDがこういうことをやる理由は、これまでFEDが金利を抑えてきましたが、市場がとうとう金利引き上げを試み始めたからです。金利は人工的に抑えられていました。そしてこの人工的低金利が長年経済を痛めつけてきました。今や金利は、上がり始めています。そして、FEDは懸命にこれを止めようとしています。本来FEDはこういうことをすべきではありません。しかし、バブルの破裂を避けるためには仕方ないでしょう。だからこそ彼らはQEに逆戻りせざるを得ないのです。もし彼らがそうしなかったら、金利はもっと上昇し、株価は下落するでしょう。不動産価格も下落。そして次の金融危機に向かうことになるでしょう。

この状況の到達点は何でしょうか？「我々の指導者の唯一の目的は痛みを先延ばしし、再選されることだ・・・」

これが全てです。見るが良い。これは巨大な時限爆弾だ。導火線はとても長いことを確認するだけだ。次の選挙が待ち構えている。そしてFED議長は、引退まですべてがこのままであることを望む。そして誰かがババを引く。だれも長期的な経済の健全性など気にしない。かならず来る結末を遅らせるだけのことだ。そして全てが素晴らしいかのように振る舞う・・・債務に関しては、これは決して返済されることはない。返済など出来っこない、実際誰も返済など信じてはいません。

というわけで、中央銀行の次の一手は？「さらなる政治的その場しのぎで紙幣印刷を進める。特に彼らが通貨を破滅させているとはだれも信じていないのだから・・・」

彼らはできるだけ紙幣印刷して債務の価値を下げようとしています。これですべてがうまくゆくと思っています。これで何かを生み出そうと言うわけだが、そんなことは不可能です。こうして一旦債務買取を始めるといっただけです。ドルはもう殺されようとしている。これが我々が向かっている道です。確かなのはまだそれが起きていないだけです。



ゴールドが突然強くなった。ゴールドが1,500ドルを超え、ほとんどの通貨で記録的な高値になりました。対ドルだけではありません。ドルはまだ他の管理通貨に対して相対的に強い。しかしゴールドに対してドルは弱くなっている。ドルの弱さがだんだん露見してきた・・・。これがさらに顕著になるでしょう。ドルが弱くな

## GOLD FOURSEASONS REPORT

### ゴールドの再貨幣化 II

り始めると米国債もそれにともなって下落するでしょう。ドルが弱くなると長期金利は上昇します。

ゴールドは本来の価値よりも過小評価されている。その理由は多くの人々が中央銀行と管理通貨に過大な信頼をおいているためだ・・・

彼らはゴールドを保つ必要をまだ解っちゃいない。思うに、彼らもすぐに突然気づくだろう、そして彼らが気付いたときには、ゴールド価格は爆発的上昇をしている・・・

ゴールドは再度マネーになろうとしています。そうなることに何の疑念も持っていません。

トランプ大統領は再選されないと見ています。ただしその理由は弾劾ではなく、経済の失敗です。貿易赤字はかつて無いほどに増えています。オバマのときより大きくなっています・・・

製造業はすでに景気後退入りしています。そして大統領選挙のときには更に悪化して景気後退状態だろう。2009年以来の最悪のものになるだろう。

2016年にトランプに投票したブルーカラーの生業は2020年にもっと悪くなるだろう。彼らはさらなる債務を抱えることになるだろう。仕事を果たにしても給与はさらに安くなるだろう。

あまりに多くの人々が、今市場で起きていることを理解していないからゴールド価格が上昇しないだけです。皆さんも御存知のとおり、だれもがFEDや世界の中央銀行を信頼しています。皆がこのバブルに信頼をおいているのです。2008年の金融危機に至る過程と同様に皆が騙されているに過ぎません。今回と前回の違いは、前回は救済されたということです。悪いことにどの専門家もウォールストリート側にいました。またどの国も危機が来ることを把握していませんでした。突然の危機に遭遇し、FEDやその仲間の世界の中央銀行は、救済することができました。今回はそうは行かないでしょう。それは中央銀行がその意志を見せないということではなく、それが成功しないだろうということです。その手続の中でドルを毀損するでしょう。もしかすると管理通貨そのものを毀損するかもしれません。そして、すでにゴールドは上昇し始めています。ゴールドの値動きが教えてくれるのは、この古いシステムはもはや無用で、再度、金本位制の復活ということです。というのもドルが席卷する前はそうでした。その前には我々は正貨金融システムを持っていました。その当時は世界経済はもっと現実的でした。一旦経済からマネーを取り出し、管理通貨を実通貨に

置き換えると、それが問題解決の始まりであり、問題は誠実通貨回帰で終わりを告げる。それはゴールドです。』

皆様、どうお感じになりましたか。

金価格/オンス	1971	2000	2019	金に対する通貨価値の下落率	
				2000-2019	1971-2019
アメリカ	35ドル	288ドル	1,440ドル	80%	98%
イギリス	15ポンド	177ポンド	1,186ポンド	85%	99%
ドイツ	65ユーロ	286ユーロ	1,297ユーロ	78%	95%
スイス	148スイスフラン	458スイスフラン	1,414スイスフラン	68%	90%
スウェーデン	182クローネ	2,448クローネ	13,900クローネ	82%	99%
カナダ	35カナダドル	417カナダドル	1,901カナダドル	78%	98%
オーストラリア	31オーストラリアドル	438オーストラリアドル	2,121オーストラリアドル	79%	99%
日本	12,000円	31,000円	158,000円	80%	92%
アルゼンチン		288アルゼンチンペソ	64,000,000アルゼンチンペソ	99.99%	—
ベネズエラ		180ボリバル	357,000,000ボリバル	99.99%	—

ホームページもご覧下さい。  
<http://www.goldtsumitatekun.com>

株式会社ゴールドリンク

 Gold Link Corporation

東京都千代田区飯田橋2丁目8番5号

多幸ビル九段10階

電話 03(5275)5588

FAX 03(5275)5677

Email: [info@goldtsumitatekun.com](mailto:info@goldtsumitatekun.com)



GOLD FOURSEASONS REPORT

2019年秋号

2010年9月1日創刊 2019年10月25日発行 通巻第35号

●本誌に掲載されている情報は内容が正確であるよう最善を尽くしておりますが、内容についての一切の責任を負うものではありません。●本誌に掲載されている情報に基づいて投資活動を行った結果、損害が発生したとしても、弊社はその責任を負うものではありません。●本誌に掲載されている内容の著作権は、株式会社ゴールドリンクに帰属します。弊社に無断で転用、複製等することは固くお断りします。